

中央教育審議会初等中等教育分科会  
教員養成部会（第152回）  
日時：2025年7月17日（木）9:30～12:00  
場所：文部科学省（対面／Web）

# イギリス（イングランド）における 大学院レベルの教員養成

－ 高等教育機関主導のPGCEを中心に －

植田みどり  
(国立教育政策研究所)

## 0. イギリスの教職員の現状（2024年度）

○教員数：468,257.9人

職員数：517,496.3人

\* FTE（Full Time Equivalent）で計算した数値。

○教員の年齢構成

25歳以下：4.2%            40～49歳：28.3%

25～29歳：13.4%        50～59歳：18.1%

30～39歳：33.0%        60歳以上：3.0%

○教員の新規入職者数：41,736人 \* FTE

・新規資格取得者：16,999人（40.7%）

・復帰者：17,274人（41.4%）

・延期新規資格取得者：2,710人（6.5%）

・公立学校への新規参集者：4,753人（11.4%）

○教員の資格レベル（2023年度データ）

合計：511,950人 \* Headcount

・学士以上：442,291人

・教育学士：41,159人

・PGCE：5,869人

・イギリス以外の教員資格：1,683人

・その他の資格：1,566人

・教育資格（certificate of education）：1,438人

・無資格：17,944人

（出典）

DfE (2025) School workforce in Education 2024

(<https://explore-education-statistics.service.gov.uk/find-statistics/school-workforce-in-england/2024#dataBlock-34fbc4c8-897b-4639-a140-1c1b2359bdbb-tables>、2025年7月9日最終確認)

DfE (2024) School workforce in Education 2023

(<https://explore-education-statistics.service.gov.uk/find-statistics/school-workforce-in-england/2023>、2025年7月9日最終確認)

# 1. 教員養成 (Initial Teacher Training, ITT) の制度概要

○公営学校 (State School) \* 1 は、教員資格 (Qualified Teacher Status, QTS) を取得した教員を雇用することが義務づけられている。

\* 1 : アカデミー (Academy) 及びフリースクール (Free School) は除く

○教員資格を取得した者は教員として登録され教員番号 (Teacher Number) が付与される。採用する学校はその番号に基づいて教員の教員資格及びその他の取得資格、倫理違反歴等を確認する。

合わせて、DBS (Disclosure and Barring Service) を利用して児童生徒への接近禁止リストを確認する。

○教員資格を取得する教員養成プログラムを提供する主体は多様である。

- ・ 高等教育機関主導

  - 学部 (undergraduate) 3~4年 (フルタイム)

    - : Bachelor of Education (Bed) (初等学校中心)

    - : Bachelor of Arts (BA)、Bachelor of Science (BSc) (中等学校中心)

  - 大学院レベル (postgraduate) 1年 (フルタイム)

    - : Postgraduate Certificate in Education (PGCE)

    - (Postgraduate Diploma in Education, PGDEもある)

- ・ 学校主導 (大学院レベルのみ)

  - SCITT / School Direct

- ・ その他

  - Assessment / Teacher Degree Apprenticeship など

## イギリスの資格レベル概要

資格レベル					
8	Doctorate (PhD)				NVQ8
7	Masters degree (MA)				Degree apprenticeship/ NVQ5,6,7
6	Bachelors degree BA or BSc				
5	Foundation degree FdA or FdSc			Higher National Diploma (HND)	
4				Higher National Certificate (HNC)	Higher apprenticeship/ NVQ4
3	Aレベル (グレードA-E)	国際バカロレア	Tレベル	BECT diploma BECT certificate	Advanced apprenticeship/ NVQ3
2	GCSEグレード4-9 (C,B, A or A+)			BTEC first diploma	Intermediate apprenticeship/ NVQ2
1	GCSEグレード1-3 (D,E, F ore G)			Foundation diploma/ Entry level Qualification	Trainership/ NVQ1
	アカデミックルート			職業資格ルート	応募/就職ルート

## イギリスの資格レベル概要

資格レベル					
8	Doctorate (PhD)				NVQ8
7	Masters degree (MA)				
6	Bachelors degree BA or BSc				Degree apprenticeship/ NVQ5,6,7
5	Foundation degree FdA or FdSc			Higher National Diploma (HND)	
4				Higher National Certificate (HNC)	Higher apprenticeship/ NVQ4
3	Aレベル (グレードA-E)	国際バカロレア	Tレベル	BECT diploma BECT certificate	Advanced apprenticeship/ NVQ3
2	GCSEグレード4-9 (C,B, A or A+)			BTEC first diploma	Intermediate apprenticeship/ NVQ2
1	GCSEグレード1-3 (D,E, F ore G)			Foundation diploma/ Entry level Qualification	Trainership/ NVQ1
	アカデミックルート			職業資格ルート	応募/就職ルート

# 1. 教員養成 (Initial Teacher Training, ITT) の制度概要

○公営学校 (State School) \* 1 は、教員資格 (Qualified Teacher Status, QTS) を取得した教員を雇用することが義務づけられている。

\* 1 : アカデミー (Academy) 及びフリースクール (Free School) は除く

○教員資格を取得した者は教員として登録され教員番号 (Teacher Number) が付与される。採用する学校はその番号に基づいて教員の教員資格及びその他の取得資格、倫理違反歴等を確認する。

合わせて、DBS (Disclosure and Barring Service) を利用して児童生徒への接近禁止リストを確認する。

○教員資格を取得する教員養成プログラムを提供する主体は多様である。

- ・ 高等教育機関主導

- 学部 (undergraduate) 3~4年 (フルタイム)

- : Bachelor of Education (Bed) (初等学校中心)

- : Bachelor of Arts (BA)、Bachelor of Science (BSc) (中等学校中心)

- 大学院レベル (postgraduate) 1年 (フルタイム)

- : Postgraduate Certificate in Education (PGCE)

- (Postgraduate Diploma in Education, PGDEもある)

- ・ 学校主導 (大学院レベルのみ)

- SCITT / School Direct

- ・ その他

- Assessment / Teacher Degree Apprenticeship など

○教員養成プログラムの提供者は教育省（Department for Education, DfE）が定める基準で認証される。

- ・ DfE (2025) Initial teacher training (ITT): criteria and supporting advice
- ・ DfE (2024) Initial Teacher Training and Early Career Framework

（表 1） ITTと就学前教育のフレームワーク

	項目	内容
1	高い期待	高い期待を設定する
2	児童生徒の学習	よい成果を上げる
3	教科と教育課程	よい教科とカリキュラムに関する知識を表明する
4	学級実践	よりよく系統立てられた授業を計画し実施する
5	適応性のある教授	適応性のある教授
6	評価	正しく効果的に効果を活用する
7	生徒指導	効果的に生徒指導を行う
8	専門職としての行動	より幅広い専門職としての責任を果たす

（出典） DfE (2024) Initial Teacher Training and Early Career Frameworkより作成

○教員養成プログラムの提供者は、教育水準局（Ofsted）の監査を定期的（3年ごと）に、共通の枠組み（Initial teacher education (ITE) inspection framework and handbook）に基づいて受ける。

- ・ 全体的な効果（教育と訓練／リーダーシップとマネジメント）
- ・ 4段階で評価（outstanding／good／requires improvement／inadequate）

## 2. 大学院レベルの教員養成の現状：入学者の現状（2024年度）

○大学院レベル教員養成プログラムへの新規入学数  
 : 23,107人（目標値33,355人の69%、前年比8%増）  
 学部新入学者（2024年度）  
 : 4,729人（前年比5%減）

○大学院レベル教員養成新規入学者の年齢構成

25歳以下：51%	40～44歳：5%
25～29歳：22%	45～49歳：4%
30～34歳：9%	50～54歳：2%
35～39歳：6%	55歳以上：1%

○大学院レベル教員養成プログラムの新規入学者の構成

		2023 年度	2024 年度
大学院レベル（学費）	学校主導（SCITT）	30%	34%
	高等教育機関	56%	50%
大学院レベル（有給） 大学院レベル教員見習い	学校主導（SCITT）	4%	6%
	高等教育機関	0%	1%
大学院レベルSchool Direct（有給）	学校主導（SCITT）	3%	3%
	高等教育機関	0%	0%
大学院レベル高度潜在能力教員養成	学校主導（SCITT）	6%	6%

- ・ 大学院レベル（学費）が全体の84%
- ・ 高等教育機関主導が51%（前年比5%減）
- ・ 学校主導が49%（6%増）

- \* 大学院レベル教員見習い  
Postgraduate Teaching Apprenticeship
- \* 高度潜在能力教員養成  
High Potential ITT

（出典）DfE (2024) Initial Teacher Training Census 2024/25

（<https://explore-education-statistics.service.gov.uk/find-statistics/initial-teacher-training-census/2024-25#dataBlock-94d37ef9-f87d-4aa6-bcd2-5f37f477dbe6-tables>、2025年7月9日最終確認）

## 2. 大学院レベルの教員養成の現状：修了者の現状（2022年度）

○大学院レベル教員養成課程修了者数  
：23,385人（前年度比：31,747人減）

○教員資格取得率  
：92%（前年度比：1%減）

○教員資格取得者の内、年度末～16ヶ月以内に教職につく割合  
：76%（前年比：2%増）  
16,307人（前年比：21,830人減）

（出典）  
DfE (2024) Initial teacher training performance profiles 2022/23

（<https://explore-education-statistics.service.gov.uk/find-statistics/initial-teacher-training-performance-profiles/2022-23>、2025年7月9日最終確認）

○機関別教員資格取得率及び教職着任率

機関	人数（人）	教員資格取得率	教職着任率
高等教育機関	10,365	90%	68%
高度潜在能力教員養成	1,335	91%	88%
大学院レベル教員見習い	1,088	97%	85%
SCITT	4,124	94%	80%
School Direct（学費）	5,785	94%	80%
School Direct（有給）	688	97%	84%
学校主導全体	13,020	94%	81%
大学院レベル全体	23,385	92%	76%
学部全体	5,787	80%	62%
大学院レベルと学部全体	29,172	90%	73%

### 3. 大学院レベルの教員養成プログラムとしてのPGCE

#### ○PGCEの受講要件

- ・ 学士 (bachelor's degree) あるいは同等の資格
- ・ GCSEの英語、数学、科学でグレード4 (C) 以上

#### ○PGCEを受講することの意義

- ・ 教授学習の知識 (teaching skills and knowledge) を取得することができる
  - \* 教科に関する知識 (subject knowledge)
  - \* 教授技術 (teaching methods and techniques)
  - \* 対人スキル (people skills)
- 適応性、コミュニケーション、創造性、共感、組織、辛抱、問題解決、反発力、自覚、チームワーク
- ・ 最大60単位を修士課程 (master) に移行できる
  - \* PGDE (Postgraduate diplomas in education) は120単位が修士課程に順当できる
- ・ 国際的な基準の資格である

#### ○PGCEの特徴

- ・ 大学等での座学中心。24週間の学校 (最低2校) での実習が実施される
- ・ 必要に応じて、SKE (subject knowledge enhancement) コースの受講を求められる
  - \* 学部卒業後5年以上経過、学士号やAレベル科目等と異なる分野を希望するなどの理由がある場合
  - \* 化学、コンピューティング、言語、数学、物理学が用意されている
- ・ 入学にあたり基礎学力 (Baseline Assessment) が求められる

### 3. 大学院レベルの教員養成プログラムとしてのPGCE – UCL –

カテゴリー	プログラム名
教員学士見習い	Mathematics and Secondary Mathematics Education Teacher Degree Apprenticeship BSc (QTS)
就学前	Early Years Initial Teacher Training (EYITT) Mainstream Route PGCE
	Early Years Initial Teacher Training (EYITT) Employment Based Route PGCE
初等学校	Primary PGCE
	Primary (Specialist Mathematics full-time) PGCE
	Primary (EYFS/KS1 full-time) PGCE
中等学校	Art and Design PGCE
	Biology PGCE
	Business Education PGCE
	Chemistry PGCE
	Citizenship PGCE
	Computing with ICT PGCE
	English PGCE
	English with Drama PGCE
	Geography PGCE
	History PGCE
	Languages PGCE
	Mathematics PGCE
	Music PGCE
	Physics PGCE
	Physics with Mathematics PGCE
	Psychology PGCE
Religious Education PGCE	
Social Science PGCE	
継続教育	Further Education PGCE

#### ○Primary PGCE

- ・フルタイム（1年間）：36週  
 大学：9時～16時30分  
 学校：学校の始業時間30分前～就業終了時間30分後
- ・学費：9,535ポンド（200円換算：190万7千円）
- ・第一学位は、最低でもLower secondクラスの大学学位
- ・Aレベルは科目の特定なし。GCSEは英語言語、科学（複合科学、生物、化学または物理のいずれか）、数学でグレードC/4以上。
- ・受講時点でDBSの結果及び労働衛生上の要件（身体的及び精神的健康）を満たしていることを示すこと
- ・プログラムは、対面式のセッション（講義、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなど）と、学校を拠点とする実践的な教育要素（実習、120日）から構成。
  - ①秋学期の学校体験
  - ②春学期の学校体験（対象的な環境1週間）
  - ③夏学期の学校体験
- ・修士レベル（レベル7）に2つ（60修士単位）、学部レベル（レベル6）に1つのコアモジュールが設定。
- ・評価は、教育観察、課題、主題の知識開発、専門的行動、自習への対応など総合的に判断される

### 3. 大学院レベルの教員養成プログラムとしてのPGCE – UCL –

#### ○モジュール（フルタイム）

#### ①教授学習モジュール（Teaching & Learning through the core subjects）

- ・子供たちが言語の自信を育むのをどのようにサポートできるか、子供たちが学校でグループ化される方法と理由、反人種差別的な教育法をどのように開発できるか、効果的な教育法と機械論的な教育法と評価実践の違いの詳細な分析を検討するなど、現代の学習と教育の重要な側面を探求する機会を提供
- ・評価は注釈付き参考文献目録（2000語）の作成と、批判的なエッセイ（2000語）

#### ②専門的実践（Professional Practices）

- ・提携校での学校体験（学校のメンターや大学のチューターがサポートし、教育スキルを開発および洗練）
- ・大学での科目別の教育セッションは、科目の知識を開発し、初等カリキュラムのすべての科目を自信を持って教えることができるように設計
- ・専門研究のセッションを教え、内省的な実践者になり、効果的な教室での教員になるために必要な専門知識、理解、スキルを開発することを支援

#### ③主要科目の専門性（Subject Specialism）

- ・選択した専門分野と、幼児教育におけるその役割についての理解を深める
- ・教員/実務家の研究プロジェクトを通じて、専門分野の知識を学校での実践的な仕事に結び付け、教員としてのキャリアの後半で“サブジェクトリード”になるための準備をサポートすることが目的
- ・専門分野（11分野）から3分野を優先科目として設定。年度を通じて、初等教育のカリキュラムの性質を批判的に検討し、その起源に影響を与えた要因を探り、将来の変化の方向性を検討すること、専門分野の主題に関連する現在の研究、政策イニシアチブ、および実践の発展についての認識を高めること、研究と評価の手法と、これらを使用して学校での継続的な専門能力開発をサポートする方法についての理解を深めること、クラス全体およびグループ活動、および場合によっては学校、ギャラリー、博物館などへのオフ  
12  
サイト訪問など、理論と実践の連続体を支援。（出典）<https://www.ucl.ac.uk/ioe/courses/teacher-training-pgce-courses>

### 3. 大学院レベルの教員養成プログラムとしてのPGCE – Nottingham大学 –

#### ○提供コース

- ・ 初等学校
- ・ 中等学校（英語、地理、歴史、現代外国語、音楽、科学（生物、化学、物理））

#### ○中等学校コースの特徴

- ・ PGCE資格(60修士レベル単位)と教員資格を取得
- ・ 大学での学習（教授活動と学校と社会について学習）と学校での学習があることにより、アカデミックチューターや学校を拠点とするメンター、そしてより広い大学からの優れたサポートを得た学習が可能
- ・ 大規模で協力の学校パートナーシップ（150校の学校）
- ・ 60単位を修士課程に移行可能。30単位は他の修士課程にも使用可能
- ・ 受講資格
  - ： 英国の学部の学位/同等の学位
  - ： GCSE/同等 – 英語(言語または文学)および数学、4(C)以上
  - ： 医療報告書
  - ： 開示・禁止サービスによる開示の強化
- ・ 1年間のプログラム
- ・ 教員としての実践的な能力と、この実践に関する理論的理解を実証する必要があり、コース終了までに教員専門職基準（teacher standards）の要件を満たすことが求められる。合わせて数学と英語の試験が課される

（出典） <https://www.nottingham.ac.uk/education/study/teacher-training/secondary-pgce.aspx>

### 3. 大学院レベルの教員養成プログラムとしてのPGCE – Nottingham大学 –

#### ○2つのプログラムで構成

##### ①学校ベースの学習

- ・各学期の進歩をサポートするための慎重に構成されたプログラム教育の段階的な蓄積、専門の教員によるすべての主要なステージでの観察、毎週のメンターミーティングで進捗状況について話し合い、開発目標を合意
- ・学校生活のあらゆる側面への関与、たとえば、クラブの手伝い、修学旅行、スタッフ会議への参加、休憩時間勤務などを経験豊富な教員の支援を受けながら活動

##### ②大学ベースの学習

- ・教育と学習を探究。より良い教員にするための理論と研究に従事

#### ○モジュールには、「学校での学習と教育」と「学校と社会」

##### ①学校での学習と教育（30単位）

- ：教科分野およびより一般的な教育と学習を探究。講義とセミナーの広範なプログラムにより、教育と学習の理論の批判的理解に基づく教育の実践的な知識を開発することを目指す。

このモジュールは、筆記課題、プレゼンテーション、および関連する教室ベースの作業を通じて評価

##### ②学校と社会（30単位）

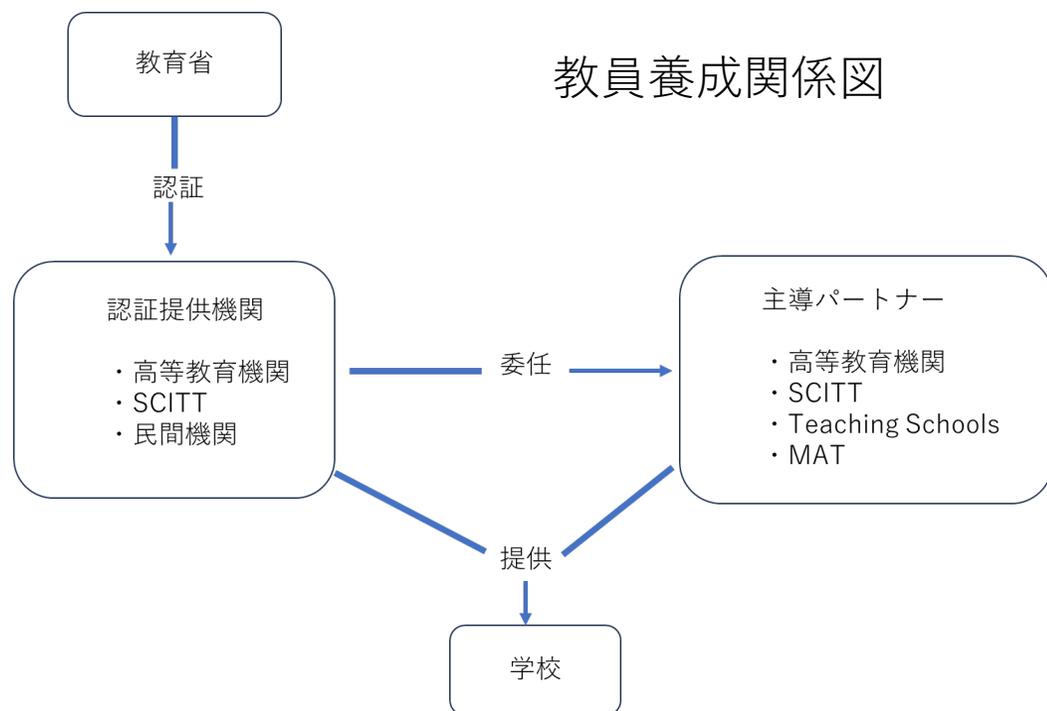
- ：教員の幅広い専門的役割の様々な側面と、学校教育の社会的、文化的、法的側面を扱う。教科横断的なセミナーグループで実施。学校や社会、及び各自の専門分野にある調査プロジェクトを完了させ、2つの課題に対する文書を作成し提出

#### ○教員としての実践能力とその実践に関する理論的理解について評価する。教員専門職基準に基づいて評価

(出典) <https://www.nottingham.ac.uk/education/study/teacher-training/secondary-pgce.aspx>

## 4. まとめ：高等教育機関における教員養成の特徴

- 多様な年齢及び学士を持つ人材がPGCEを通して教員資格を取得していること
- 教員養成プログラムを提供する主体が多様であること。学費か給付型か、学校主導か高等教育機関主導かによって区分される
- 教員養成プログラム提供者としての認証を受けていること。認証された機関と主導パートナーのパートナーシップにより提供



- 高等教育機関における大学院レベルの教員養成では、大学と学校現場の双方での学習経験を通して教員としての実践力と、その実践の基盤としての理論を学習する。理論と実践の往還が重視されていること
- 高等教育機関におけるPGCEでは、修士課程の適用できる単位が取得できること
- 質保証の仕組みとして、組織の質保証としての認証と監査。教員資格取得者の質管理として教員専門職基準による評価

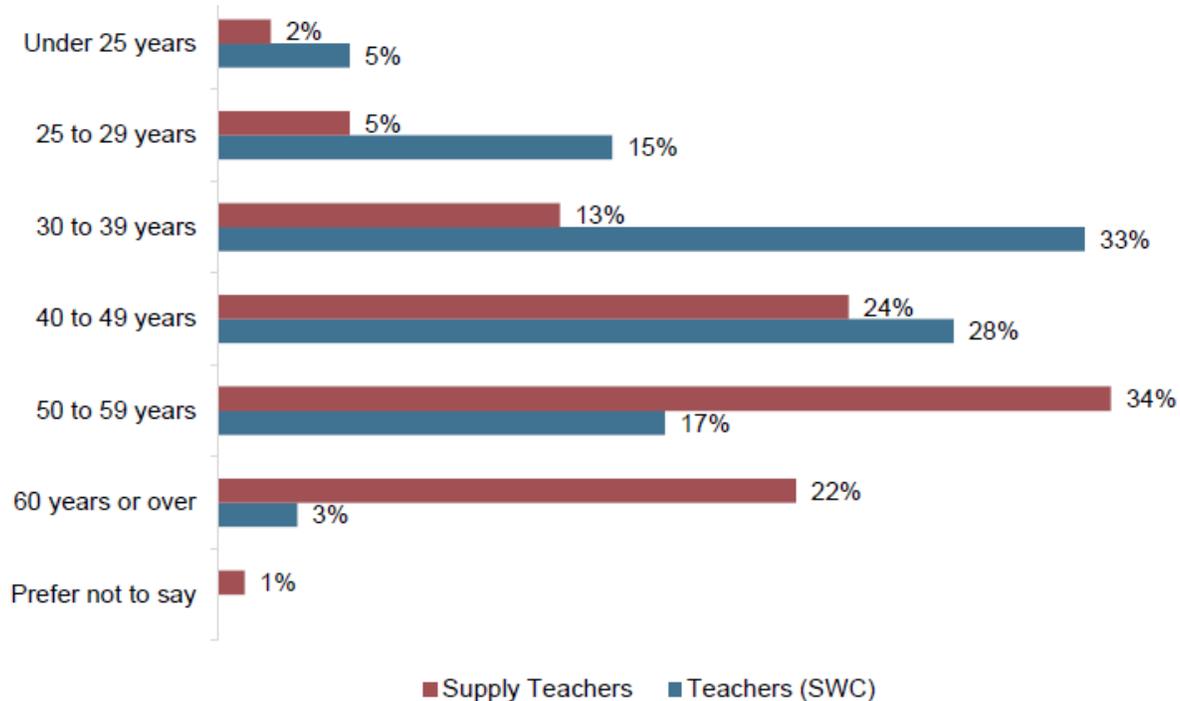
(出典) <https://becoming-a-teacher.design-history.education.gov.uk/becoming-a-teacher/understanding-the-relationships-between-organisations-delivering-initial-teacher-training/>  
(2025年7月9日最終確認) より作成

## 5. Supply Teacherについて

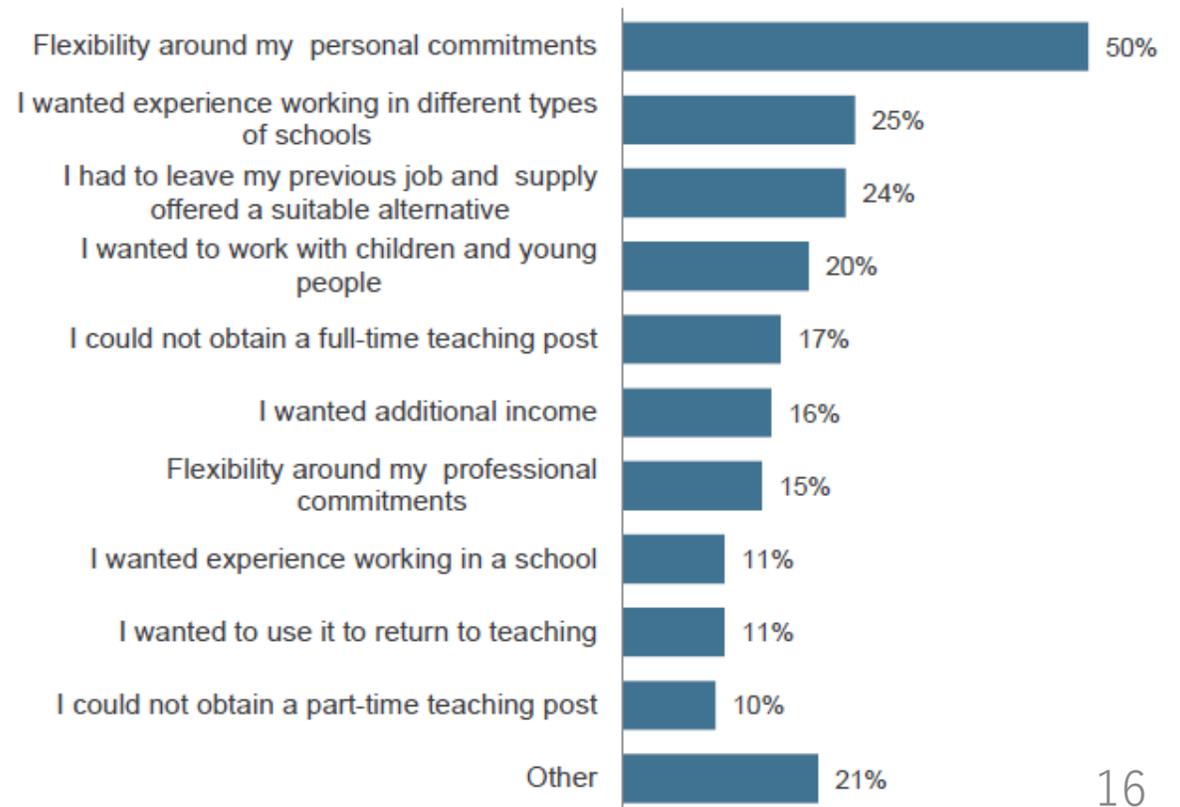
- 学校、地方当局（Local Authority, LA）にSupply Teacherとして直接雇用される、あるいは民間企業（エージェント）に雇用され、学校に臨時的に派遣される教員
- 雇用形態及び雇用条件等は、直接学校、地方当局に雇用されている場合と、民間企業に雇用されている場合により異なる。民間企業の方が公的基準（給与基準、雇用条件等）が適応されない。

### ○特徴

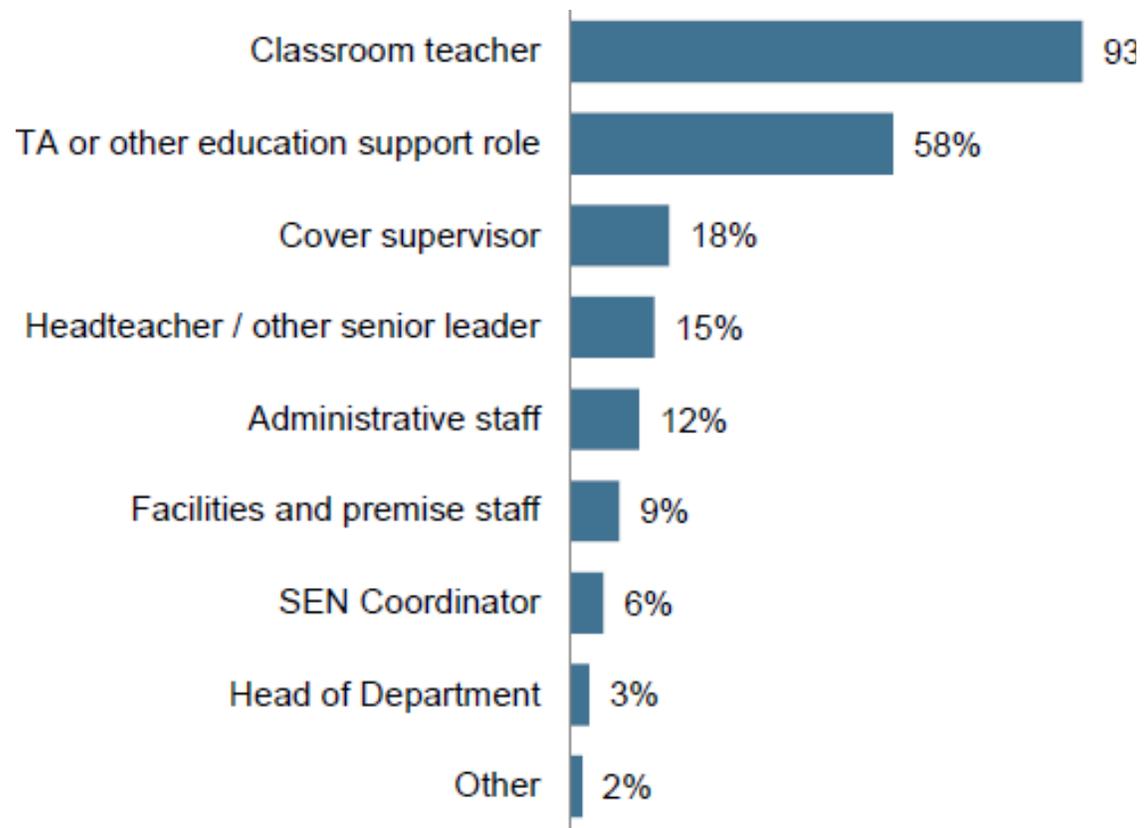
- ・教員より50～60歳代の人が多い



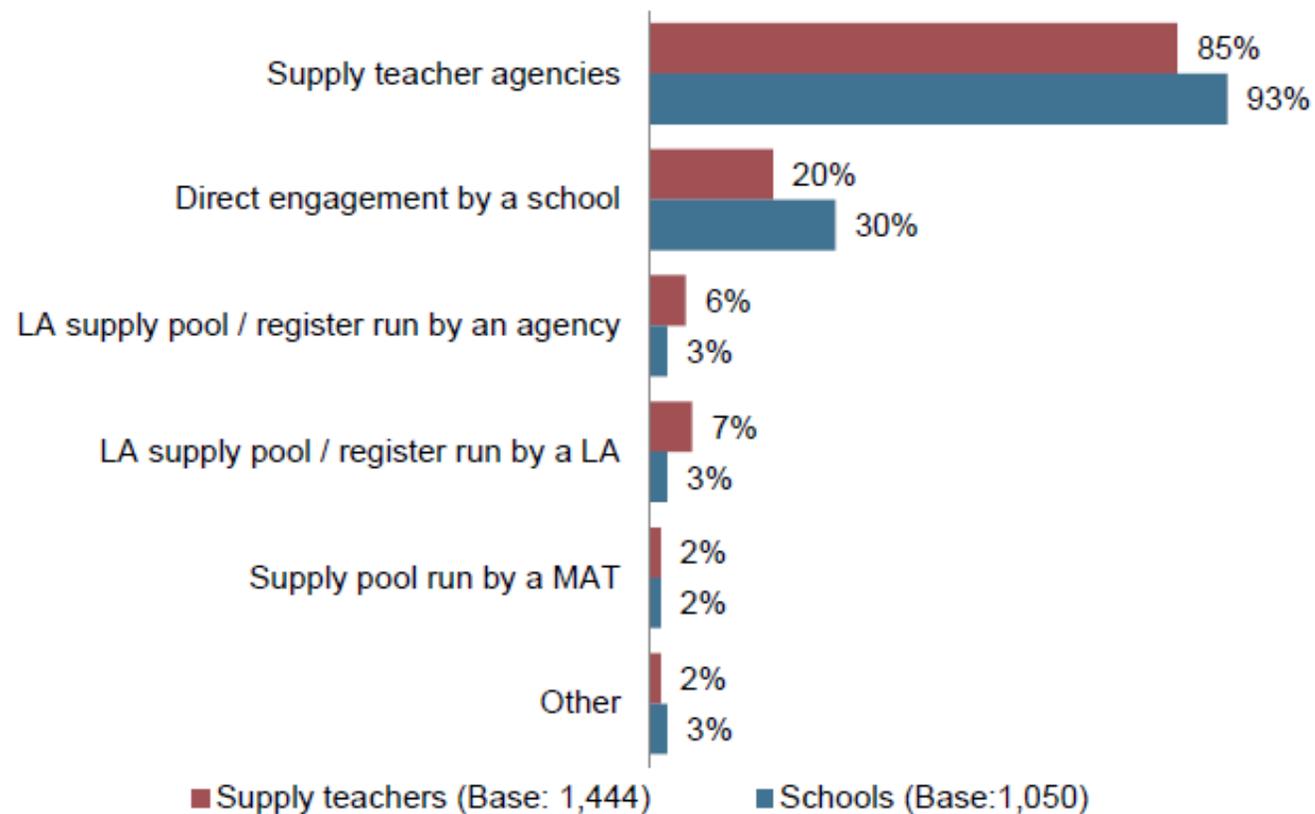
- ・選ぶ理由は柔軟な働き方が多い



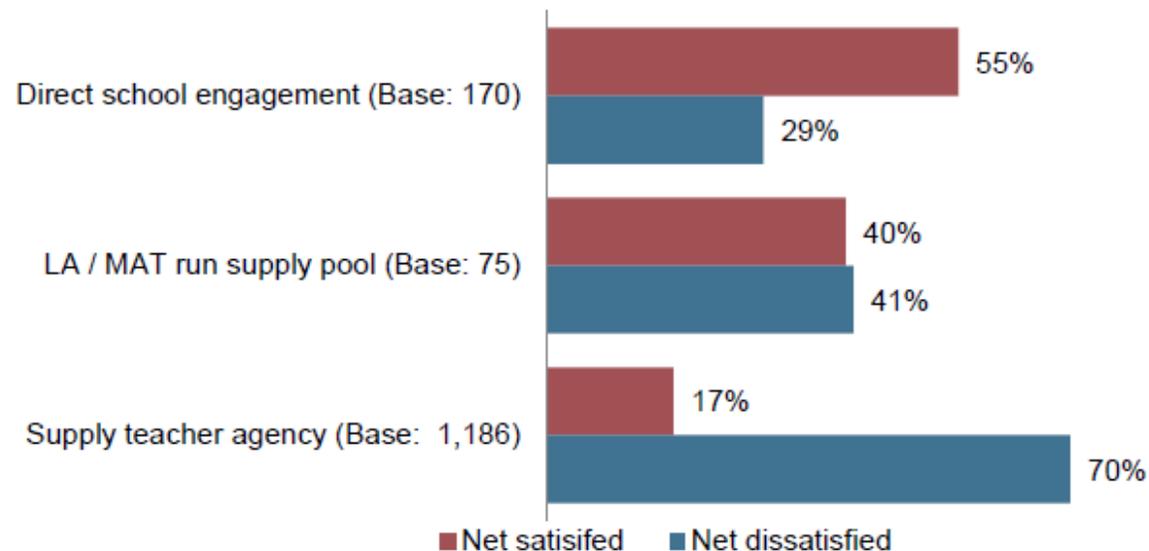
- 学級担任、TAやその他のサポートスタッフとして活動が多い



- 民間企業（エージェンシー）に雇用されている割合が高い



- ・ 給与の満足度は学校雇用が高く、民間企業（エージェンシー）は低い

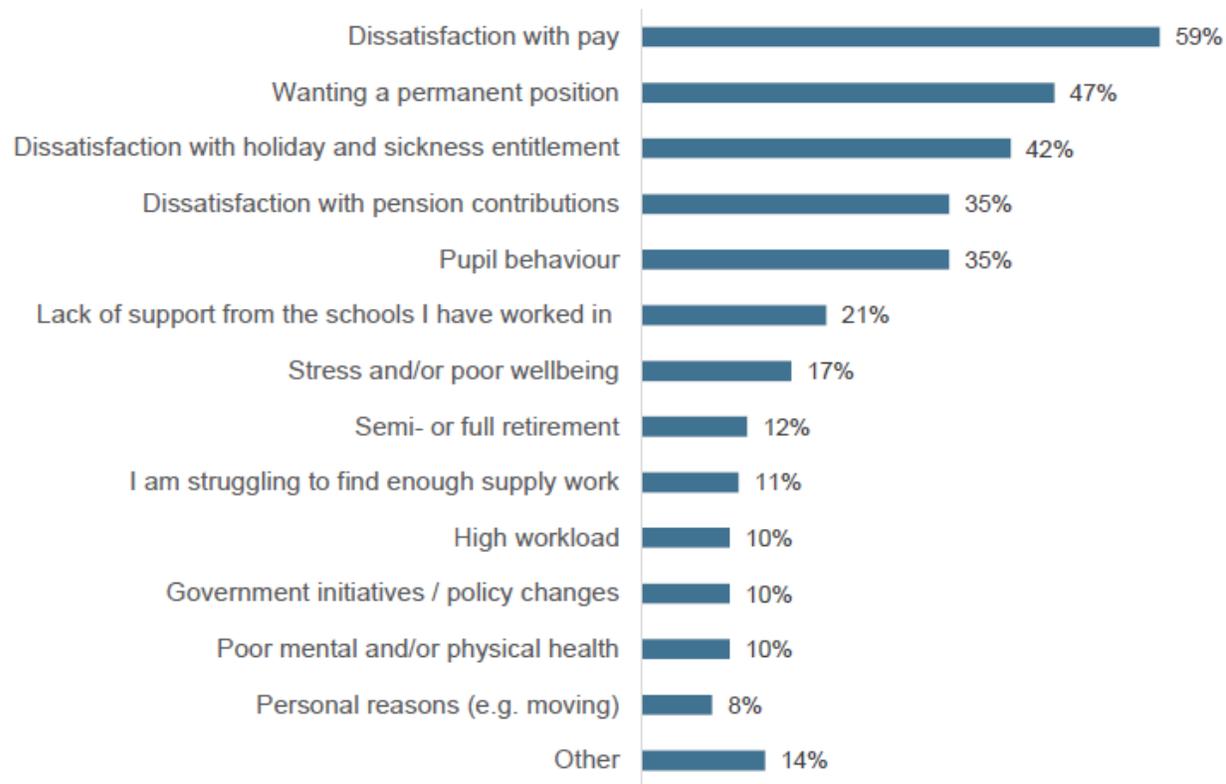


日当 = 年休基準額 ÷ 195日

給与スケール	年休	日給
M1 (Minimum)	£31,650	£162.31
M2	£33,483	£171.71
M3	£35,674	£182.95
M4	£38,034	£195.05
M5	£40,439	£207.38
M6 (Maximum)	£43,607	£223.63
U1 (Minimum)	£45,646	£234.09
U2	£47,338	£242.76
U3 (Maximum)	£49,084	£251.72

(出典) Supply Teachers' Pay (England)  
<https://www.naswt.org.uk/advice/supply-teacher/supply-teachers-pay/supply-teachers-pay-england.html>、2025年7月9日最終確認

- ・ Supply teacherをやめる理由は給与への不満が最も多い。その次がフルタイムの職に着くため、休暇や病休への対応の不満



(出典) CEF Research (2024) Use of supply teachers in schools, DfE

### 【参考・引用文献資料】

- CEF Research (2024) Use of supply teachers in schools, DfE
- DfE (2024) Initial Teacher Training and Early Career Framework
- DfE (2025) Initial teacher training (ITT): criteria and supporting advice
- Ofsted (2024) Initial teacher education (ITE) inspection framework and handbook  
(<https://www.gov.uk/government/publications/initial-teacher-education-ite-inspection-framework-and-handbook/initial-teacher-education-ite-inspection-framework-and-handbook-for-september-2023>、2025年7月9日最終確認)
- Robert Long, Shafi Danechi (2023), Initial teacher training in England, House of Commons Library
- DfE (2021) Initial teacher training (ITT) market review report
- 佐藤仁編著 (2023) 『多様な教職ルートの国際比較—教員不足問題を交えて—』 学術研究出版
- 国立教育政策研究所 (2025) 『教育分野の公務労働に関する調査研究3 諸外国における教員の働き方』

### 【主要参考サイト】

- Get into Teach  
<https://getintoteaching.education.gov.uk/>
- DfE Initial teacher training (ITT)  
<https://www.gov.uk/government/collections/initial-teacher-training>
- DfE Statistics: initial teacher training  
<https://www.gov.uk/government/collections/statistics-teacher-training>